

〔續世繼<sup>七</sup>根合〕媿子の内親王と申は、○中ほりかはのみがどのあねにて、御は、ぎさきになぞらへて、皇后宮にた、せたまふ、院號ありて、郁芳門院と申き、寛治七年五月五日、あやめのねあはせさせたまひて、歌合の題、菖蒲、郭公、五月雨、祝戀、なん侍りける、こまかには、歌合日記などに侍るらん、判者は六條のおほい殿、させ給へり、周防内侍戀歌、

こひわびてながむるそらのうき雲や我下もえの烟成らん、とよめりけるを、判者あはれつかふまつりたるうたかなと侍ければ、右歌人かちぬとて、このうた詠じて、たちにはけるとなん、二位大納言の宰相におぼせしにかはりて、孝善が、ひくてもたゆくながきねのとよみと、め侍るぞかし、

〔金葉和歌集<sup>夏</sup>〕郁芳門院根合に、あやめをよめる、

藤原孝善

あやめ草ひくてもたゆくながきねのいかであさかの沼に生けん

〔百練抄<sup>五</sup>河〕寛治七年五月五日、郁芳門院根合、兼日定、兩方念人、有歌合、蓋大儀也、

〔古事談<sup>二</sup>節〕郁芳門院根合之時、右方有五丈之根云々、伴根備前國牟古計ノ狭戸ニアル似菖蒲物之根云々、凡菖蒲根長不過丈也、前例尤長根ハ杜若ノ根也云々、

中納言通俊

〔詞花和歌集<sup>夏</sup>〕郁芳門院のあやめのねあはせによめる

もしほやくすまのうら人うちはへていとひやすらん五月雨の空

〔康和二年<sup>五</sup>日備中守仲實朝臣女子根合歌〕題 一番 菖蒲根

左持

周防掌侍

あやめ草ながきために引ばかりまたかゝるねはあらじとぞ思ふ

右

俊頼朝臣

みかきもる衛士のたま江におり立てひけばあやめのねもはるかなり○下